



## 《会計・税務の知識》 財務戦略をチェックしよう！

### はじめに

事業を行っているとき、資金繰りや資金調達に一度は困ったことがあるかと思います。資金繰りにできるだけ困らないようにする「財務戦略」とはどのような事が考えられるのでしょうか？今回は、チェックリスト形式でお送りします。

#### 1. 財務戦略とは・・・？

簡潔にまとめますと、以下のようになります。

- ①必要な資金はどれくらいか（いつ・いくら）
- ②どこからどれだけ資金を調達するか
- ③調達実行後のバランスをどう調整するか  
（モニタリング・資金繰り）
- ④調達先に対してどう責任を果たすか  
（還元・報告・関係維持）

→財務戦略とは、これらを総合的に考え、方針を持ち、計画を作ること、というように表現できます。

#### 2. 必要な資金はどれくらいか（いつ・いくら）

これは、事業計画を策定し、収支だけでなく、設備投資や資金繰り等も総合的に勘案して策定することによって、算出できます。本紙では語りきれないので、別途ご案内いたします。

簡単なチェックポイントとしては、

- PL（損益計算書）の予算がある
  - BS（貸借対照表）の予算がある
  - CF（キャッシュフロー計算書）予算がある
- といった基本項目です。この3表の予算があれば、いつ、いくら資金が不足するかが一目でわかるようになります。

#### 3. どこからどれだけ資金を調達するか

必要な資金額がわかったら、次はその調達方法です。簡単な項目を上げると、以下のようになります。

- 資金調達の選択肢を多く持っている
- 必要な資金の調達先が確保できている
- 必要資金調達の為の条件が揃っている

次に、不測の事態に備えた、より実践的な対応としての項目は以下が挙げられます。

- 想定した資金調達ができなかった場合の代替案を持っている
- 自社がいつ・いくら・どこから資金調達できるか、常に情報更新している
- 資金調達の優先順位ができています

#### 4. 調達実行後のバランスをどう調整するか

資金調達後には、財務のバランスが変わります。また、一度構築した戦略を実行したとしても、事業の状況に合わせて、常に見直しが必要になります。

- 月単位で資金繰り実績表ができています
- 3か月先の資金繰り予定表ができています
- 必要資金を減らす努力や試行錯誤をしている

#### 5. 調達先に対してどう責任を果たすか

資金調達は、借りたり、出資してもらったら終わり、というわけではありません。その後の活動によって、より有利な条件での調達や、追加の調達、困ったときの支援等、調達先への責任の果たし方によって、対応が大きく変わります。

- 資金調達先との信頼関係が構築できている
- 調達先に対して適時、適切な報告がなされている
- 報告資料は文章化されており、協力が得られやすい資料になっている

#### 6. 詳しくは・・・書籍で

詳しくは、弊所出版「財務戦略のプロが教える資金調達Q&A」（平成27年2月：日本法令）をご購入の上、ご確認ください。

### おわりに

以上、いかがでしたでしょうか。一つでもチェックができないものがありましたら、財務戦略のプロ集団である小谷野公認会計士事務所にご相談ください！

（担当：横瀬）